

～調査・報告した大学生の声～



佐藤 <sup>あらた</sup>新 さん

福島大学  
行政政策学類 3年

参加したみなさんが思い思いに話をしてくださり、楽しんでもらえたので調査して良かったです。これまで貝田は通過するだけで、詳しく分かりませんでしたが、調査を通して地区のみなさんの地元への愛情が伝わってきました。



浜道 萌 さん

福島大学  
行政政策学類 3年

私たちより詳しい地元の人に調査報告することはとても不安でした。古文書を読み解きながら、地元の人にも知らないようなことを報告したいと思い調査を進めてきました。実際に報告会では、古文書を読んでもわからないようなことを地元の方から聞いて良かったです。まだまだ調査に終わりはないと思いました。

どで炊いた、ほかほかのおにぎりに緊張が解け、学生も参加者も和やかな雰囲気の中、報告会は進みました。

報告を聞いて…

温かく、どこか懐かしい味のおにぎりを食べながら、参加者は感想を述べ合っていました。「地元のことでも知らないようなことを若い人たちがこんなに詳しく調べてくれてうれしい」「子どもの頃、いつ

も木に登って鉄道を眺めながら、いつか乗ってみたいとあこがれていた頃を思い出した。今では当たり前のように電車に乗れるようになった。貝田が移り変わってきた姿が目につかびます」と懐かしそうに話しながら、笑顔があふれていました。

“だからもの”をつなぐ

1年間の調査や報告を通して、町では貝田地区の“た

からもの”探しとその魅力の発信を学生に手助けしてもらいました。また、貝田地区には建物としての『博物館』はありませんが、地区に現存する建物やこれまでの歴史そのものが博物館に展示される価値あるものだということを教えてもらいました。今後も地区のたからものを守り、価値を高めていかなければなりません。そして、博物館は貝田地区に限らず他の地区にも存在するはずですよ。

“域学連携事業”  
大学生の力で  
地域を元気にするプロジェクト貝田編

# 貝田宿 まるごと博物館



福大生と見学ツアーに参加したみなさん

国見町と域学連携協定を締結している福島大学。福島大学の学生が1年間の調査成果を報告し、学芸員となり見学ツアーを企画。学生の手によって、貝田地区が博物館と化した。

## 福島大学行政政策学類 博物館実習受講生

×貝田地区



### 福大生が1年間の 調査成果を報告

福島大学の学生は、国見町にある「たからもの」を探し、多くの方にその魅力を知ってもらおうと国見町について調査してきました。博物館実習(指導教官:阿部浩一教授)を受講している3年生13人は貝田地区の歴史や文化について調査し、1月24日、貝田公民館で報告会を開きました。報告会には百人以上の来場者があり、会場は満席となりました。学生は3班に分かれテーマごとに調査成果を報告しました。貝田を歩き、地元の人への聞き取り調査、町や県、新聞社に残る過去の文献の読み解き、他自治体の先進事例調査など多岐に渡る調査は約1年かけて行われました。各班のテーマは「貝田の信仰と祭礼について」「貝田地区にみられる産業(国見石と養蚕)」「新聞と県庁文書から見る貝田の鉄道火災」の3つです。寺社と地

区の人々とのかわり、宿場町から養蚕業への変遷、鉄道火災を防ぐための住民活動の歴史などについて報告がありました。また第2部として、学生が貝田を案内する見学ツアーも行われました。

### 貝田地区のみなさん との連携

「貝田宿まるごと博物館」として学生が報告を行うにあたり、当日は阿部初男町内会長をはじめ地区のお母さんたちから、参加者に昼食としておにぎりがふるまわれました。国見石のかま



学生のガイドによる見学ツアー

## 桜の聖母短期大学 食物栄養専攻 1年生 ×貝田地区

《プロジェクト入門編》  
～貝田地区の歴史と食文化を知る  
フィールドワーク～



ドワークで学んだことを活かし、町の特産品を使ったメニューや食育教材の開発などに取り組みます。



齋藤遥菜 さん

桜の聖母  
短期大学 1年

貝田地区のみなさんが優しくかったです。優しさが料理の味に表れていました。町内会長の阿部さんも気さくな人柄で、たくさん話していただき楽しかったです。ありがとうございました。